

ほんのり雪山・奥武蔵丸山～大野峠

西 正子

●2017年2月11日(土) 晴れ

●メンバー 島崎 岩田 白井 西M

●コースタイム 約4時間30分

あしがくぼ駅→丸山→大野峠→あしがくぼ駅

体がちぢこまるこの季節、近郊の低山歩きを企画した。突然の計画にもかかわらず4名の参加者があり、楽しい1日を過ごすことができた。

出発点のあしがくぼ駅は、ふだんよりも人が多い。歩いて10分ほどの『氷柱』に向かう観光客が、パンフレットをもらったり身支度を整えたりして、駅前には、いつになくにぎわっている。

私たちは用意を整えると、喧嘩をはなれ、山道にとりついた。

傾斜がきつい果樹園の道は、途中いくつもの股に分かれる。しかし、道標にしたがって右よりに進むと、しぜんに丸山(960.3m)へむかう登山道に入ることができる。

南向きの道が、西へと方向を変えると、だんだんと雪の量が増える。気温も下がり、少し休んでいると身震いするほどの冷気だ。

雪は二層になっていた。上はふかふか軽い、下の層は固く凍り付き、正直、歩きづらい。行きかう登山者も、アイゼンを付けている人、いない人が半々だ。私たちも「下り道がこんなに滑るようだったら、アイゼンを出そう」などと言いながら、転ばないように登っていく。

山頂周辺は、20cmほど積もっていた。日差しを浴びた雪山は、きらきら光り、とても美しい。

コンクリート造りの展望台に上がると、まわりの山がぐるりと見渡せる。いちばん近いのはポリュームのある武甲山だが、印象的なのは、両神山だ。独特のぎざぎざの山稜はどこから見ても絵になる形だ。澄み渡った空の下、山並みは幾重にも連なり、遠くの山ほど白さが際立っていた。

眺めは美しいが、風はしびれるほど寒い。休憩もそこそこに出発。20分ほど歩き、日当たりのよい雑木林の中で昼食にした。

谷をはさんだ対岸の山がよく見える。雪斜面に、整然と伸びる冬木林は凜として気持ちがよい。厳しい季節を耐え忍び、春の芽吹きを待っているのだろうか。

下りは、道がふたたび南面に転じるので、雪の量もさほどではなかった。車道と登山道が交差する大野峠を経て、ジグザグ道をゆっくりと下った。

さて、駅に戻った後、私たちも観光客の列に混じり、『あしがくぼの氷柱』見物に出かけた。(環境保全料200円)

林の傾斜を利用して作った、幅100mを越える氷のオブジェに、たくさんの、たくさんすぎるくらいの人が、カメラを出していた。が、雲竜溪谷などの大自然と比べるとやはり『あかちゃん感』が否めない。ちょっとがっかりだった。(後から調べると、埼玉県警山岳救助隊が登山道凍結時の訓練活動をこの氷柱を使って行っているとのことだった)

最後のめめは、飯能駅近くの『居食屋・なかよし』だ。『散歩の達人』に紹介されただけあって、馬刺しや自家製レーズンバターなどお料理も立派。日本酒もよく、結局、歩行時間と同じくらいの反省会となった。



あしがくぼの氷柱